

令和元年 10 月に発生したトラブル事象について (1 / 1)

		区分Ⅲ
件名	グラインダーによる開先作業中の両大腿部切創	
発生日時	令和元年 10 月 2 日(水) 12 時 15 分頃	
発生場所	増設施設 プラズマ分解炉室 2 系プラズマ熔融分解炉 炉蓋経年劣化対応工事作業場所 (管理区域レベル2)	
環境への影響	なし	
PCB 汚染の可能性	なし	
概要(時刻は頃) (応急措置等)	<p>【概要】 プラズマ熔融分解炉はPCB入りの安定器や小型電気機器等を熱分解する装置で、増設施設に 2 基設置されている。プラズマ熔融分解炉は高温で連続運転するため傷みが早いことから、9 月に 1 系プラズマ炉補修工事及び 1・2 系経年劣化対応工事を実施している。 今回の事象は、2 系プラズマ分解炉 炉蓋経年劣化対応工事に従事している男性作業員がグラインダーによる開先作業中に両大腿部を切創した。被災した工事会社作業員は 57 歳男性。S 社の三次請け会社の作業員。なお当該作業員へのPCB等の接触はなく、経年劣化対応工事及び秋期定期点検中のため操業への影響もなかった。</p> <p>【時系列】(時刻は頃) 9/10 プラズマ熔融分解炉1・2 系経年劣化対応工事を開始した。 10/2 7:45 当日の作業内容を確認した。体制は、元請:S 社、一次:N 社、二次:K 社、三次:H 社で、被災作業員は H 社の従業員である。 8:30 被災作業員がプラズマ熔融分解炉室に入室し、同工事作業場内でガス溶断作業の火気監視作業に従事した後、11:50 からグラインダーによる開先作業を開始した。 12:00 使用していた 100mm グラインダー(ハンドル付き)が故障したため、近くにあった 125mm グラインダー(ハンドル無し)を使用して作業を継続した。 12:15 125mm グラインダー(ハンドル無し)による開先作業を行っていたところ、グラインダーが跳ねて砥石部が両足大腿部に接触、左足は 3cm 程度、右足は 5cm 程度切創した。 12:15 N 社監督者に報告。 12:16 S 社の監督者に報告。 12:17 JESCO 運転管理課増設の運転管理課長に報告。 12:40 被災作業員の所属する会社の車で、神島整形外科医院へ搬送した。(13:35 到着) 13:40 同医院にて診察、治療を開始した。(15:23 終了)治療は右大腿部縫合と消毒。 16:00 作業員詰め所に帰着。 10/3 7:30 被災作業員出社。 8:30 N 社が当該災害についての安全教育を実施。(被災作業員受講) 13:30 N 社がグラインダー使用時のルールに関する安全教育を実施。(被災作業員受講) 15:15 S 社内で再発防止のための安全教育を実施。 10/4 10:00 S 社が S 社協力会社作業員に対しグラインダー安全作業に関する講習用ビデオによる安全教育を実施。(被災作業員受講) 10/15 同医院にて抜糸及び消毒。 10/17 同医院から「創治癒し治療終了す。」との診断書を受領。</p>	
事象による影響 (安全への配慮)	当該作業員へのPCB等の接触はなく、経年劣化対応工事及び秋期定期点検中のため操業への影響もなかった。	
発生原因	(1)人的要因:グラインダーの使用ルール(ハンドル付きを使用)は認識していたが、ハンドルのない125mmグラインダーを使用し作業を行った。なお、100mmグラインダーと125mmグラインダーのハンドルに互換性があることを知らなかった。 (2)設備的要因:使用していた100mmグラインダーが故障したため近くにあった125mmグラインダー(ハンドル無し)を使用した。 (3)作業的要因:炉蓋の形状と作業内容から作業姿勢に制約が生じていたが、適切な足場を設置しなかったためグラインダーの進行方向に足を置いてしまった。 (4)管理的要因:KYシートにはグラインダー使用についての危険予知はされていたが、リスクの意識付けが不十分であった。ハンドル無しのグラインダーが現場に持ち込まれていた(道具の持ち込み管理、始業前点検の不備)。グラインダー作業のリスク評価は行っていたが「作業別リスク見積及び評価表」を作業員へ周知できていなかった。	

再発防止対策	<p>(1)人的要因に対する対策: ハンドルの付いたグラインダーを使用することを作業員全員に再教育する。グラインダー作業がある場合は、今回の災害事例を作業員に説明し類災防止を図る。</p> <p>(2)設備的要因に対する対策: 工事作業開始前、作業場にハンドル無しグラインダーが持ち込まれていないか確認する。</p> <p>(3)作業的要因に対する対策: 切り欠き部に足場を設置することで、安全な作業姿勢を確保する。</p> <p>(4)管理的要因: 今回の協力会社以外のS社協力会社作業員にも災害事例として周知する。工事開始前に持ち込み道工具にハンドル無しのグラインダーが含まれていないか確認する。工事作業開始前の危険予知活動時にリスク評価表を活用し、作業員全員に作業上のリスクを周知する。</p>
連絡・公表の状況	<p>【事象区分の判断】 通達連絡・公表基準に基づく、区分Ⅲ(不労災害: 休業を要しないが、通院加療が必要な労働災害)に該当。</p> <p>【対外対応】 10/2 12:48 JESCO本社、13:00 室蘭労働基準監督署、13:05 胆振総合振興局・環境生活課、13:10 室蘭市・環境課、13:05 道庁・循環型社会推進課に電話第一報連絡。 10/24 13:30~15:00胆振総合振興局・環境生活課1名と室蘭市・環境課2名による環境保全協定に基づく立入検査を受検。</p> <p>【報告・公表】「通報連絡・公表の取扱い」に基づく報告として、11/11 に報告書を北海道及び室蘭市に提出し、PCB処理情報センターに配備した。</p>

件名 グラインダーによる開先作業中の両大腿部切創

図・写真

<p>増設処理施設 1F 管理区域図</p>	<p>炉蓋経年劣化対応工事作業場所</p>				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td data-bbox="183 1697 598 1758" style="text-align: center;">被災時に使用していたグラインダー</td> <td data-bbox="606 1697 1026 1758" style="text-align: center;">足場設置後の開先作業姿勢</td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1769 598 2078"> <p>100mm グラインダー (ハンドル付き)</p> <p>125mm グラインダー (ハンドル無し)</p> </td> <td data-bbox="606 1769 1026 2078"> </td> </tr> </table>	被災時に使用していたグラインダー	足場設置後の開先作業姿勢	<p>100mm グラインダー (ハンドル付き)</p> <p>125mm グラインダー (ハンドル無し)</p>		<p>グラインダーによる開先作業の再現状況</p>
被災時に使用していたグラインダー	足場設置後の開先作業姿勢				
<p>100mm グラインダー (ハンドル付き)</p> <p>125mm グラインダー (ハンドル無し)</p>					